

2016年12月期 第1四半期業績予想

ルネサス エレクトロニクス株式会社
2016年6月7日

2016年12月期 第1四半期業績予想

当社は、2016年6月28日開催予定の第14期定時株主総会で、「定款一部変更の件」が承認されることを条件として、2016年度より決算期を3月31日から12月31日に変更することを予定しています。

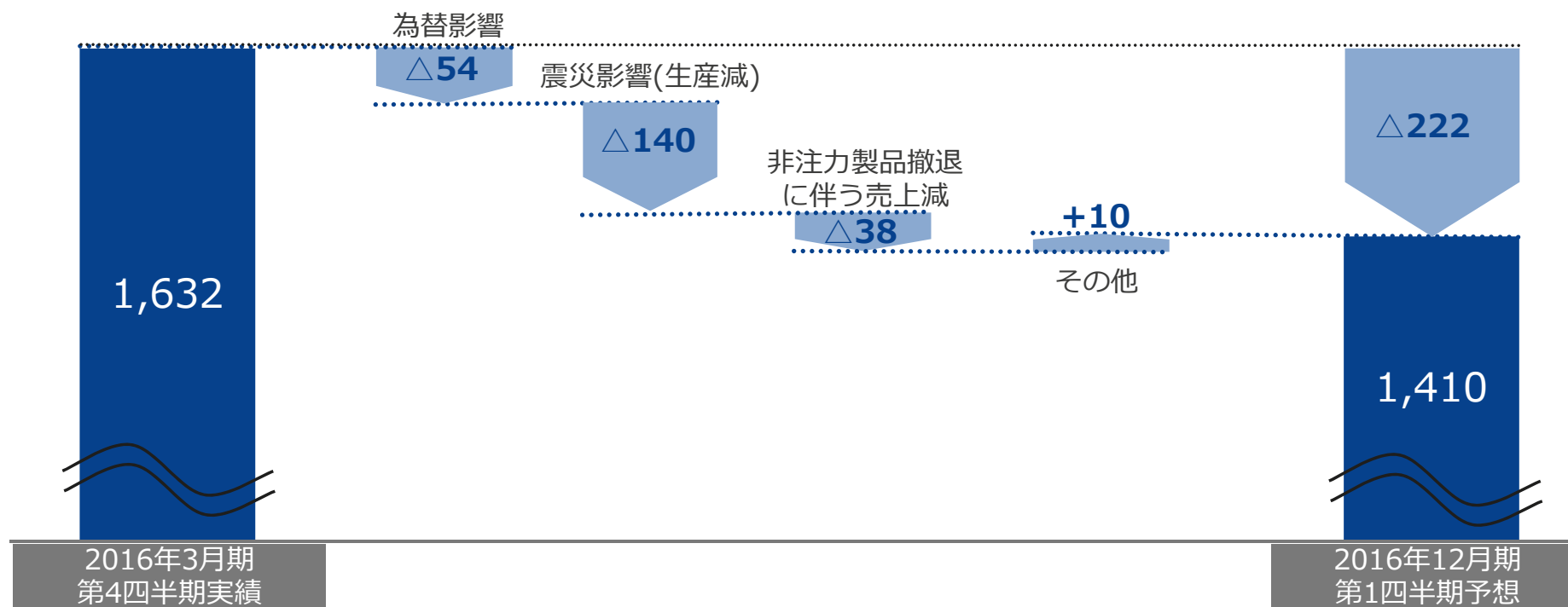
震災影響

主な震災影響	影響額
■ 売上高影響	
■ 生産ラインの稼働停止による影響	140億円の減収
■ 営業利益影響	
■ 売上（生産）減による利益減	80億円の減益
■ 特別損益影響	80億円の減益
■ 不稼働・低稼働による損失	20億円の損失
■ 建物・設備等の固定資産修繕費	50億円の損失
■ たな卸資産の廃棄損、その他	10億円の損失 * 保険金10億円の利益を含む

2016年12月期 第1四半期 半導体売上高見通し

前四半期比 (億円)

- 震災による一時的な需要増があるものの、震災影響による減収140億円、非注力製品撤退に伴う売上減などにより、前四半期比222億円減を見込む



2016年12月期 第1四半期 業績予想

(億円)	2016年3月期		2016年12月期		
	第1四半期	第4四半期	第1四半期	前年同期比	前四半期比
売上高	1,793	1,678	1,450	△19.1%	△13.6%
半導体売上高	1,745	1,632	1,410	△19.2%	△13.6%
売上総利益率	44.5%	40.8%	40.0%	△4.5Pts.	△0.8Pts.
営業利益(率)	324 (18.0%)	157 (9.4%)	100 (6.9%)	△224 (△11.2Pts.)	△57 (△2.5Pts.)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	299	103	10	△289	△93
EBITDA	477	312	261	△216	△51
1 米ドル	120円	118円	110円	10円円高	8円円高
1 ユーロ	131円	130円	124円	7円円高	6円円高

2016年12月期 第1四半期 業績予想サマリー

第1四半期の主な半導体売上高増減背景

- 半導体売上高
 - 震災による一時的な需要増があるものの、震災影響による減収140億円、非注力製品撤退に伴う売上減などにより、前四半期比222億円減を見込む

第1四半期の主な利益増減背景

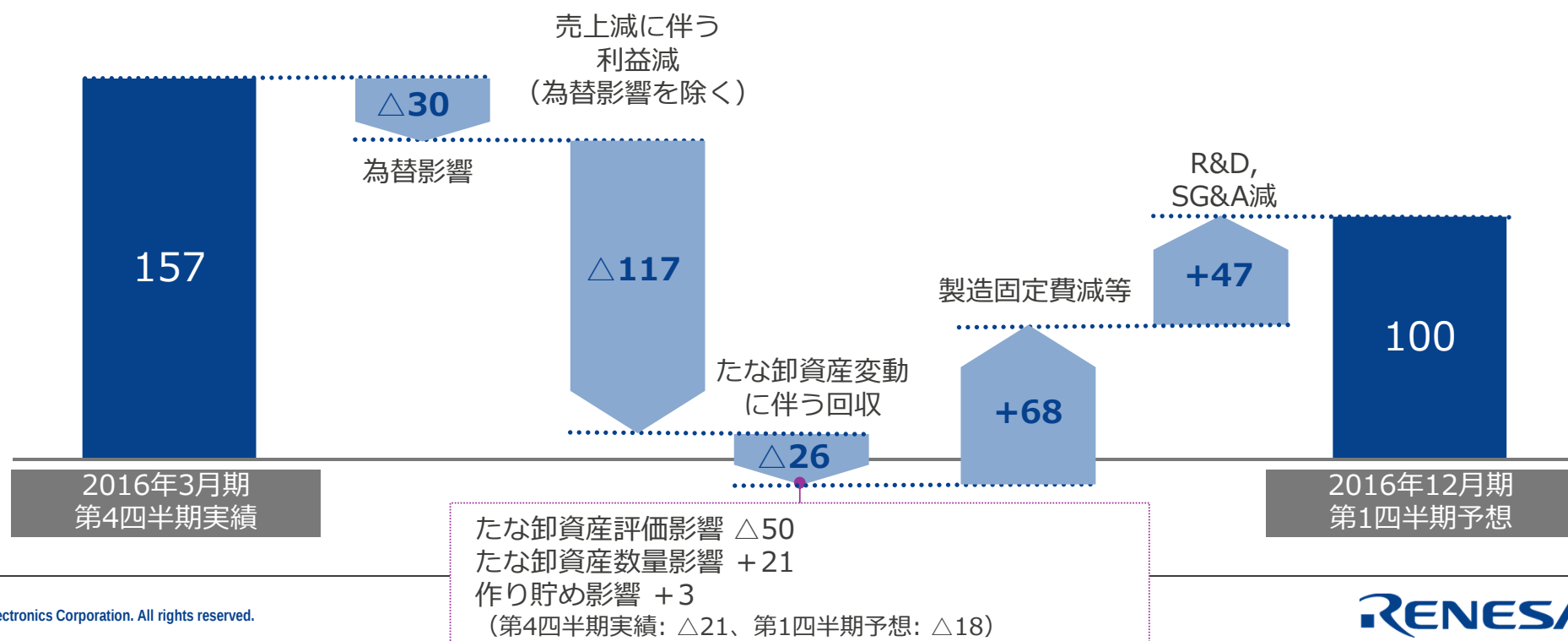
- 売上総利益率
 - 前四半期の費用集中の反動による費用減はあるものの、震災影響等による減収や低稼働による固定費負担増による利益減により、前四半期比△0.8ptsの40.0%を見込む
- 営業利益（率）
 - 同じく、前四半期の費用集中の反動による費用減はあるものの、売上減に伴う利益減や為替影響などにより、前四半期比△57億円の100億円、営業利益率は前四半期比△2.5ptsの6.9%を見込む

APPENDIX

2016年12月期 第1四半期 営業利益予想

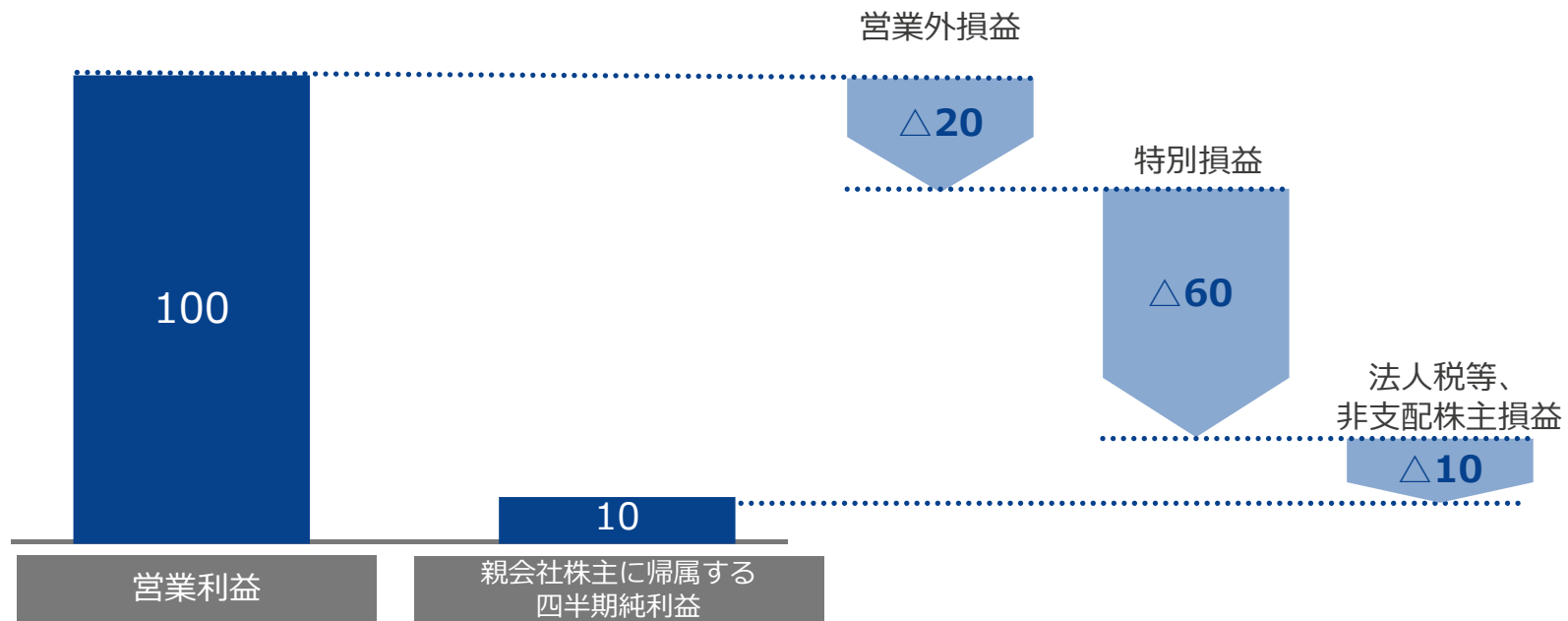
前四半期比 (億円)

- 期末費用集中の反動があるものの、売上減に伴う利益減や為替影響などにより前四半期比57億円減の見込み



2016年12月期 第1四半期 親会社株主に帰属する四半期純利益予想 (億円)

- 第1四半期は震災関連の特別損失等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億円の見込み



(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1) ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2) 市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4) 為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。